

2021年9月30日にシリル・ラマポーザ大統領が発表した 新型コロナウイルス感染防止対策に関する声明（抜粋）

- デルタ変異株の感染拡大による第3波の収束が確認されたことを受けて、10月1日より南アフリカ全土を対象とした感染警戒レベルは2から1へと引き下げられる。
- 第3波は第1、2波よりも2週間ほど長い130日以上におよび、1日あたりの新規感染者数はピーク時で2万人近くに上ったものの、直近7日間の新規感染者数は平均で1日あたり1,800人程度にまで減少。入院患者と死亡者数も全ての州で減少が続いている。
- 10月1日より適用される感染警戒レベル1では：
 - 外出禁止時間は深夜12時から午前4時まで短縮。
 - レストラン、バー、スポーツジムといった日常生活に必須ではない施設の営業時間は午後11時まで延長。
 - あらゆる集会における収容人数の制限は屋内で最大750人、屋外では2,000人までに緩和。
 - 小規模会場についてはソーシャルディスタンスの確保をはじめとした感染予防対策の徹底を条件とし、引き続き最大収容人数の50%以内とする。
 - 前述の人数制限は宗教関連行事や政治集会、会合の他、レストラン、バー、スポーツジムとそれに準ずる施設についても適用の対象とする。
 - 葬式への参加人数は最大100人までに緩和されるものの、通夜、葬儀後の催しは禁止措置を継続。
 - アルコールの販売については店内での提供を含めて午後11時までとする以外は、通常営業が許可される。
 - 公共の場でのマスクの着用義務は継続。違反者には罰則が課される。
- 政府は経済復興に向けて、ワクチン接種を従来にも増して強力で奨励する姿勢を打ち出し、週末のワクチン接種を推進する新たなキャンペーン「Vooma Vaccination Weekends」を10月1日に開始する。
- 南アフリカではこれまでに累計1,700万回分以上のワクチンが投与されている。
- 成人人口の20%以上に相当する860万人以上がワクチン接種を完了。
- 60歳以上で60%、50～59歳では50%が少なくとも1回のワクチン接種を終えている。
- 南アフリカ政府では年末までに全人口の70%がワクチン接種を完了することを目標に掲げている。目標達成にはさらに1,600万回分のワクチン投与が必要で、12月中旬まで平日1日あたり約25万回分の投与を続けることが求められている。
- ワクチン接種プログラムはすでに8月20日から国内に在住する18歳以上の全ての人を対象に進められている。
- 南アフリカにとって重要な貿易相手国であり、多くの観光客が来訪する英国では、南アフリカを感染リスクの高い国として渡航禁止を勧告しており、貿易・観光分野にマイナス影響がおよんでいる。

- 英国の科学者は南アフリカ由来のベータ変異株の存在を危惧しているものの、現実として南アフリカではデルタ変異株による感染事例の数が圧倒的に上回っている。これについてラマポーザ大統領はボリス・ジョンソン首相と電話会談を行い、南アフリカ側の主張を伝え流ことで一定の理解は得られたとしている。
- この種の件に関する決定は科学的見地から下されるべきという認識を双方が共有していることは確認されており、今後の見直し場で賢明な判断が得られると期待している。